17 おじいさんのねがい

―屋台ばやしをもう一度―

秋祭りをひかえて、光一たちの練習する屋台ばやしのたいこの音で、公民館ははりさけんばかりです。

テレンテン　テレンテン　テレンテン

テン　テン　テン

「おっ、うまく合ったぞ。その調子、その調子。」

由美たちとたいこの音がうまくそろったとき、おとなの人たち

にほめられました。その中には、光一のおじいさんもいます。

二週間ほどたち、今度はおとなの人たちがふく笛と合わせる練習に入りました。しかし、どうしてもうまく合いません。

「だめ、だめ。次の節にうつるときの笛の音をしっかりと聞き分けなくては……。いいかい、もう一度やるよ。」

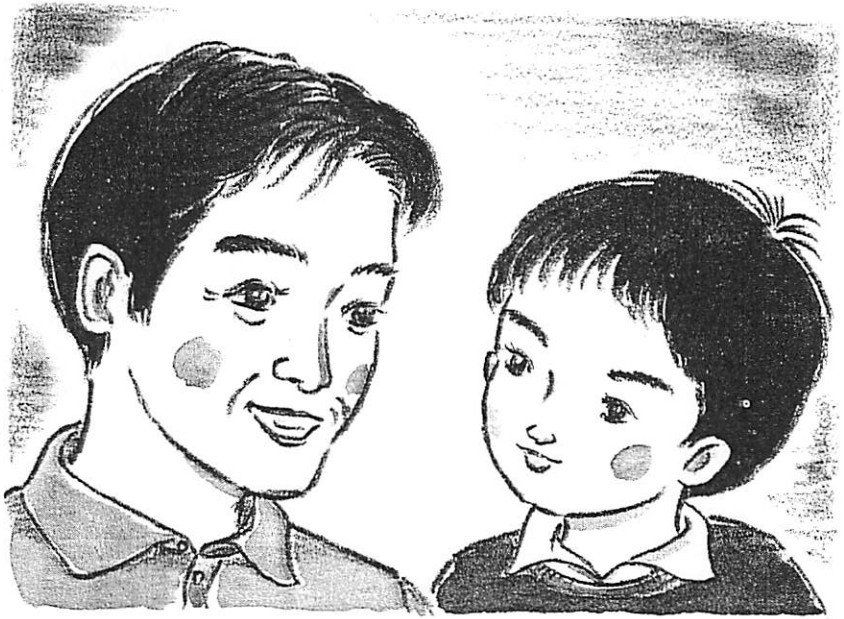
流れるような笛のリズムに、たいこの音を合わせるのは大変むずかしいのです。今年は他の地区もこの屋台ばやしに参加するというので、おとなたちはいっそう力が入ります。光一も、ときどき強くしかられます。

その夜、光一は、会社から帰ってきたお父さんに、とつぜん

「練習を休みたい。」

したもんだ。毎日、楽しみだったなあ……。おとなになっても、祭りが近づくと、畑仕事にも力が入ったもんだ。毎ばん、けいこをしながら、米のできぐあいや町のことなどを話し合うのが楽しみでな。祭りの日になると、みんながはっぴを着て、子どもからおとなまで、町中が一つになって、楽しんだものだ。」

光一は、しみじみと話すおじいさんの目を見ていました。そして、今年の練習が始まる前に、「ぼくもやってみたい」と言ったときの、おじいさんのうれしそうな顔を思い出していました。



「やっぱり、ぼく、続けるよ。」

光一は思わず声をあげました。

そのときです。お父さんの思いがけない言葉が飛び出しました。

「おじいさんたちが、三十年ぶりにはじめた屋台ばやしだ。これ

は、みんなで続けないとね。光一、お父さんもやってみるよ。ふだんの日も、できるだけ会社から早く帰って、練習に参加するよ。」

こうして、お父さんも加わって、公民館での練習が続けられました。

テレボコ　ボコボコ　テレボコ　テンテン……

「ちがうよ。お父さん。『らんびょうし』に入ったら、さいしょのところは六回くりかえすんだけど、わからなくなるから、二回ごとに、うでを大きくふりあげるんだよ。」

光一の言葉に、お父さんがうなずきます。あせだくで必死にたたく光一とお父さん。二人の気持ちがみんなにも伝わっていくようです。

（お祭りのとき、ぼくたちのおはやしで町中が元気になるぞ。）

たいこの音がますます大きくひびきわたっています。

17　おじいさんのねがい
―― 屋台ばやしをもう一度 ――

4 ―(5)　郷土の文化と伝統を大切にし，郷土を愛する心をもつ。（郷土愛）

1主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

子どもにとっての人間形成は，生まれ育った地域（郷土）に大きく影響される。郷土のよさは，そこに居ることでどことなく落ち着いた安心感や親しみをかもし出してくれることである。しかし，昨今の子どもは郷土意識が希薄であり，生まれ育った所へのかかわりも弱い。そこで，郷土の自然の美しさを守り，人々との触れ合いを通して温かみのある人間愛を実感できる体験を多く積ませる必要がある。地域とのかかわりの強さが地域に対する愛情を生み，郷土愛をはぐくんでいくからである。

〈子どもの実態について〉

この期の子どもは，生まれ育った地域と結び付いた活動への関心を寄せ始める。また，地域で行う行事にも強い参加意欲をみせ始める。ところが，地域の自然や遊び場，行事等は減少傾向にあり，地域に親しもうにも親しみきれない現状がある。そこで子どもが喜んで活躍できる場づくりを図る必要がある。子どものかかわりが可能な範囲内で教材を発掘することにより，地域の行事や活動に興味をもち，積極的にかかわろうとする態度を養いたい。また，地域の人々や生活，文化，伝統に親しみ，大切にすることを通して，郷土を愛する態度を養いたい。

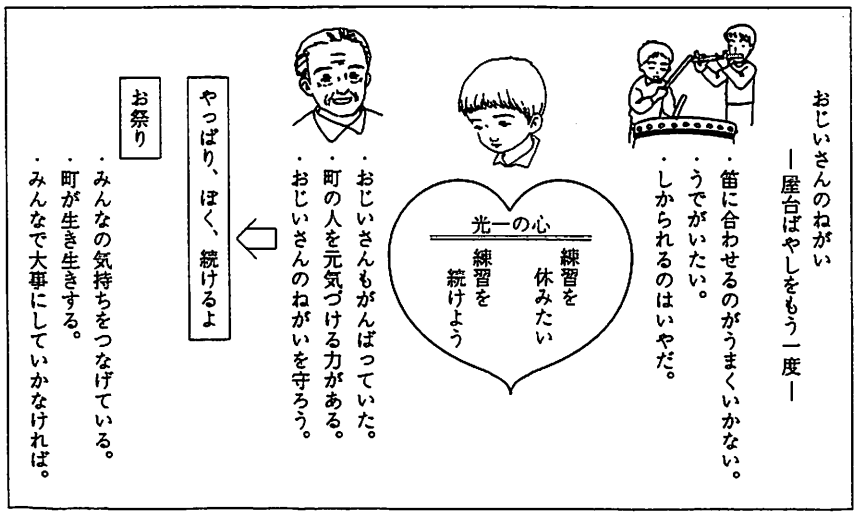
〈資料について〉

本資料は，町の伝統行事となっている「屋台ばやし」に参加したり，祭りにまつわるおじいさんの話を聞いたりして，祭りに込められた人々の願いを感じ取り，これを継承しようとする光一の姿を中心に描いたものである。「屋台ばやし」に参加する光一とお父さん，おじいさんの三世代が，温かい心の触れ合いの中で連綿と続く伝統行事を受け継いでいく様子を考えることにより，子どもたちが自分の住む郷土に関心をもち，その一員としての自覚をもって生活していこうとする態度を養うことができる資料である。

2ねらい

郷土の行事などに進んで参加し，郷土の文化や生活に親しみ，郷土を愛する態度を養う。

□板書



3展開

学　習　活　動	支援上の留意点
(1)　郷土の祭りや伝統行事について，知っていることや参加したときのことを発表し合う。	・　行事等の写真や紹介用の冊子を用いて，郷土の様子や行事が具体的にイメージできるようにする。
(2)　資料「おじいさんのねがい」を読んで話し合う。 ①　光一は，どんなことを考えて屋台ばやしの練習を休みたいと言ったのでしょう。 ・笛に合わせるのがうまくいかないからいやだなあ。 ・腕が痛くなって大変なのに，叱られるのはいやだ。 ②　おじいさんからお祭りの話を聞いて考えをめぐらす光一の心には，どんなことが浮かんでいるでしょう。 ・おじいさんも子どもの頃，練習を頑張っていたんだなあ。 ・おはやしには，町の人を元気づける力があるんだ。	・　楽器演奏等の練習に取り組んだ自己の経験と重ねて考えることにより，光一の心情を共感的にとらえることができるようにする。 ・　おじいさんの心情を考えることにより，屋台ばやしを再開しようとするおじいさんたちの行為は，郷土愛に根付いたものであることに気付くことができるようにする。
③　おじいさんの話を聞き，光一は迷っています。どんなことを考えているでしょう。 ・やっぱり練習を休みたい。 ・練習を続けなければ……。	・　役割演技（葛藤劇）を通して二つの心を深くとらえ，ついには練習を続けようと決心した光一の思いに迫ることができるようにする。
④　光一が「やっぱり，ぼく続けるよ。」と言ったのは，どんなことを考えたからでしょう。 ・今，続けないとお祭りが続いていかない。 ・やめようとした自分が情けない，おじいさんに悪い。	・　役割演技を通して，おじいさんの願いを守っていこうという光一の思いを深く考えられるようにする。
⑤　休みたいと思っていた光一が続けることにしたのは，光一のお祭りや自分たちの町に対する考え方がどう変わったからでしょう。 ・お祭りは自分たちみんなの気持ちをつなげているんだ。 ・お祭りがあった方がこの町が生き生きとしている。 ・町のみんなでお祭りを大事にしていかなくては。	・　光一のお祭りや地域に対する考えの変化を共感的にとらえることにより，郷土を愛する心の大切さに気付くことができるようにする。
⑥　お父さんと一緒に力いっぱいたいこをたたく光一はどんなことを考えているでしょう。 ・練習はつらいけど，それがお祭りをずっと続けていく力になるんだ。 ・お祭りを続けることに自分も役立っているんだ。	・　郷土を愛する心は自分の中にもあることに気付き，今後の生活への方向付けを図ることができるようにする。
(3)　郷土の行事などに取り組んだことのある友達の話を聞き，自分がどのように祭り等にかかわればよいか，話し合う。	・　郷土の行事等に参加体験のある子どもの作文を事前にまとめておき，授業に生かしたい。
(4)　教師の話を聞く。	・　教師の郷土への思いを話すことにより，生まれ育った地域に結び付いた活動への実践意欲を高めることができるようにする。